

佳作

## バスでの出来事

静岡県 浜松西高等学校中等部三年 袴田 鈴

私が中学生になって小学校の時と変わった事はたくさんありますが、その中でも最も変わった事が徒歩通学からバス通学になった事です。「歩かなくてもいいんだ！車で運んでもらえるなんてラッキー！」と小学生の私は思っていました。しかし、いざバスで通学してみるとそんな事はなく、満員の中でギューギューと押されながら右へ左へ揺られる度に、「ランドセルを背負ってのほほんと歩いていたら頃は幸せだったな。」と思い知らされました。

こうして三年間バスでの登下校をくり返してきた私ですが、最近よく「バスの中での乗車マナーは人の心を表すなあ。」と思います。これは私が中学二年生の時の出来事です。ちょうど帰宅ラッシュと重なり、私が乗ったバスはもうおしいあいへしいの状態でした。そんな時あるバス停で男性が二人乗ってきました。するとその男性二人組が、突然大きな声で

「なんでこんなに満員なんだよ！こっちは疲れてんだよ！」

と文句を言い始めたのです。「先程乗せてもらえなかった学生だっているのに、どうして些細な事で文句が出るのだろう。大人なのに…。」と不快な気分になりました。

しかし私が中学三年生の時、こんな出来事がありました。浜松駅から乗った私は一つだけ空いていた優先席に座りました。すると次のバス停で、買い物袋を下げた六十代くらいの女性が乗ってきました。私が座っているのは優先席です。私はその女性に席を譲りました。始めは遠慮されたのですが、私が

「優先席なので。」

と言うと座って下さいました。すると、前の優先席に座っていた若い女性も席を立ってしまったのです。「優先席なので、なんて私が言ったら他の方も座りづらくなってしまいか…。」と後悔しました。そんな時それをみていたおばあさんが、

「じゃ私がその優先席に座るわよ。そうしたら、あなたはココに座ればいいじゃない。」と言って下さいました。色々な人を動かしてしまっただけで申し訳なかったな…と思ったのですが、それ以上に私の一言が譲り合いを連鎖したんだなあ…と思うと、なんだか温かいような、少しくすぐったいような気持ちになりました。

社会で生きる、という事は周りの人々と共に生活していく事を意味します。私達はその中で、周りの人に迷惑をかけないと生きられないし、助けてもらわないと生きていけないと私は思っています。でもそれと同じくらい、他の人を思いやる気持ち、配慮を持った私でなければならぬのだと思います。困っている方がいらしたら自分にできる事をするのも当然の事です。バス乗車に限らず、生きていく中で起こる様々な出来事に対していつでも誠実に、また温かい気配りができる、そんな人間になりたいと思います。日々の身近な生活の中にもちょっとした感動があり、またそれが心を明るく温めてくれる。だから人と一緒に生きていく事は楽しいんだな、と思いました。